東京ふる里岩内会会報

IWANAI

■発　　行　東京ふる里岩内会
■発 行 日　2024年10月1日
■発行者・編集人　松代洋子
■住　　所　東京都千代田区六番町3-5-403
■電　　話　090-1885-6480
■F A X　03-6380-4472
■メ ー ル：y-wens@orion.ocn.ne.jp

楽しい今日と、明るい明日が見える

No. 34／2024

東京ふる里岩内会 創立四十五年を迎えて新しいスタートを

東京ふる里岩内会　会長　松　代　洋　子

このたび、和泉会長のあとを引継ぎまして東京ふる里岩内会の七代目の会長に就任いたしました松代洋子と申します。よろしくお願いいたします。

私自身は岩内育ちではなく、会員歴だけは長いのですがそれだけで果たして会長という重責が務まるのかの思いでおります。ただ岩内愛だけは人後に落ちないと自負しております。

幸い副会長以下役員の方々は心強い皆さま方ばかりで松代丸が遭難しないよう務めてくださると励まして下さったので力強く嬉しく思っております。

岩内は母が生まれ育った町で、父が転勤族だったため、父が広島で出征した昭和十九年に岩内へ疎開。少しの間、祖母の出身地である前田にも住み、周りが畑ばかりだった光景をぼんやりと思い出します。その後、父が無事戻りましたので札幌に。札幌には小学校2年まででしたが休みの度に岩内に行ってました。叔母に連れられて夕方になると岩内港に行き、カモメが飛ぶ光景を何時までも眺めていたのを今でも鮮明に懐かしく思い出します。札幌の後、三重県、大阪と移りましたが中学1年で又、札幌に戻りましたがその九月にあの大火で岩内の実家も焼けてしまいました。私の記憶にある岩内は焼ける前の岩内です。そして母の実家は万代でしたので私の岩内は万代だけです。小沢で乗り換えて、冬にはだるまストーブで暖をとりながらの岩内線での岩内行も懐かしい思い出です。

会員の皆様も岩内にはそれぞれの思いが沢山あると思います。なかなか岩内には行けなくても、そういう思いに馳せながら会員同士尚一層、懇親を深めていきたいと思います。

春の観桜会では、初めて後志管内のふる里会の小樽会、余市会、倶知安会、ニセコ会からご参加いただき大変盛り上がり、喜んでいただきました。これからは役員の方だけではなく会員の皆様とも横の繋がりで懇親を深めていきたいと思っております。しりべしミュージアムロードは岩内の木田金次郎美術館、荒井美術館、倶知安には小川原脩美術館、共和には西村計雄記念美術館、ニセコには有島記念館とまさに後志管内にはこれだけの美術館があるのは宝と思います。有島記念館には岩内町出身でJR北海道の特急電車の社内誌の表紙を毎号飾っている版画家藤倉英幸さんが多くの作品を寄贈されています。

ご多分に漏れず岩内も少子化は大きな課題です。そんな中、新聞で嬉しい記事を見つけました。

日本で初めて食用アスパラガスの本格的な生産が始まった「発祥の地」なのに、生産者がいなくなった。そんな町で、農業と無縁の「よそ者」だった青年が、アスパラ復活への第一歩を踏み出した。という記事です。しかも大新聞の夕刊の一面に大きく。

観光大使の任命をいただいておりますが、その大役を果たすべく、今の岩内について知る必要も大です。昨年秋に温泉総選挙でいわない温泉が総務大臣賞を受賞したそうです。東山遺跡というのも知りませんでした。改めて、岩内の奥の深さ、歴史、文化等、観光大使の役目をひしひしと感じております。

又、大相撲が始まると呼び出しの「一山本関北海道岩内町出身」も、岩内のPRに大きく貢献しております。ますますの活躍を楽しみに東京場所には毎回応援に駆けつけております。

十一月九日（土）の総会の場でお会いするのを楽しみにしております。

町ぐるみで災害に強い町づくりを

岩内町長　木　村　清　彦

東京ふる里岩内会の皆様、関東方面は暑い日が続いていることと思いますが、いかがお過ごしでしょうか。

この原稿を書いている6月の北海道は過ごしやすい初夏の季節を経て、いよいよ本格的な夏の訪れを前に暑さを感じる日も多くなってきました。もうじき夏の風物詩でもある「岩内神社例大祭」、そして、昨年から通常開催に戻りました「いわない怒涛まつり」と夏のお祭りが続きますが、その時期にふさわしい陽気となりつつあります。

東京ふる里岩内会の皆様には、日頃より会員相互の親睦と連帯のもと、郷土岩内に寄せる深い想いを胸に、物心両面にわたり様々な形でご支援とご協力を賜り、心から感謝と御礼を申し上げます。

さて、私は昨年10月の岩内町長選挙において当選の栄に浴することができ、2期目の町政がスタートしました。会員の皆様と連携を図りながら、本町の発展のために精力的に活動して参りますので、引き続きよろしくお願いいたします。

2期目のスタートを飾る最初の大きなニュースとなったのが、令和元年から改修事業に着手してきた風致公園「含翠園」が、本年4月にリニューアルオープンを迎えたことです。4月29日に行われた落成式では、多くの来賓が見守る中、改修工事に尽力いただいた工事業者に感謝状を贈りその労をねぎらい、式典後の内覧会ではこの日を心待ちにしていた町民や本町に縁のある多くの方々が訪れ、桜が咲き誇る春の陽気の中で、趣のある和の庭園のたたずまいを楽しんでいただきました。

今年度は、本町の将来像を描くうえで欠かすことのできない大きなプロジェクトがいくつか区切りを迎える予定となっております。中でも計画を進めている「岩内町立地適正化計画」は、50年先のまちづくりを見据えた計画的な土地利用の誘導を図るべく策定を進めております。

今年1月に発生した能登半島地震では多くの方が被災され、今なお住み慣れた自宅を離れ不便な生活を余儀なくされている方も多く、心からお見舞いを申し上げるところでありますが、本町においても20cmの津波を観測し、岩内町役場に併設する保健センターには30名あまりが自主避難をしました。目立った被害はありませんでしたが、改めて災害の恐ろしさや日頃からの備えの大切さ、そして、災害に強い町づくりの必要性を再認識させられるものでした。本計画は防災を意識した町の将来像を示すという観点からも大変重要なものであり、これによって町民が住み慣れたこの町で安全に暮らし続けていくための道筋ができることとなります。

また、今年は「岩内大火」からちょうど70年の節目の年にあたることから9月には記念式典を挙行し、改めて被災された方々に哀悼の意を捧げるとともに復興の歴史を振り返り、町民をはじめ、本町に関わる多くの方に災害について考えていただき、町ぐるみで災害に強い町づくりを進めていくためのきっかけとなるよう準備を進めているところです。

このような施策や事業を通じて、私たちのふるさとである岩内町が私たちの子や孫、その先の世代に至るまで、愛される郷土としてこれからも発展を続けていくことができるよう町政2期目の職務をしっかりと全うして参ります。時代の流れはめまぐるしく変化しておりますが、岩内大火からも力強く立ち直った先人たちの強靭な精神力を胸に、私たちの「ふる里」をしっかりと後世に引き継いで参ります。

会員の皆様には、本町に対して変わらぬご支援とご協力をお願い申しあげますとともに、東京ふる里岩内会のますますのご発展、会員皆様のご健勝とご多幸を心からお祈り申し上げ、ご挨拶とさせていただきます。

追伸：11月の総会で皆様と元気にお会いできることを楽しみにしております。

東京ふる里岩内会
令和六年度役員名簿

役職	氏名
会長	松代洋子
副会長	髙松庫雄
(事務局長)	今　慶範
理事	下田和房
	住吉義弘
	相原正利
	谷口弘子
	吹田久良
	本村和也
	阿部英子
	志尾明洋
監査役	野村健司
	鈴木金三
名古屋常駐	辻　博行
名誉顧問	木村清彦
顧問	中村尚武
	伊野達哉
	和泉　剛
	佐藤幸一
	川端健一
	中鉢　繁
	大石浩之

岩内町の明るい話題

含翠園で落成式！

含翠園は、初代岩内町長の梅澤市太郎氏が明治後期から大正初期にかけて、当時25万円（現在価値：約9億5，000万円）という巨額の個人資産を投じて造園したもので、迎賓の場として数多くの著名人が訪れておりました。また、昭和29年に発生した岩内大火の被災を免れた町の貴重な施設でもあり、昭和47年に所有が鍛元氏に移った後も一般町民へ広く解放され、町民に親しまれておりました。令和元年から町としての改修事業を進め、このたび完成し、本年4月29日に落成式を執り行いました。お越しになられた際は、ぜひ、ご覧いただければ幸いです。

海水浴場開設へ！

「海のまちなのに海水浴場がない。」そんな声を受け、旧フェリー埠頭共和町側の砂浜で今年の夏に新たな海水浴場の開設に向け、役場が中心となり現在準備を進めております。海水浴場の名称は、分かりやすさや言いやすさ、英語表記のしやすさなどから、「いわないマリンビーチ」としました。近年では、北海道でも夏が非常に暑くなってきておりますので、夏季の子ども達の遊び場や新たな観光スポットとして賑わうよう、新たな海水浴場の開設に向け頑張っていきます。

地酒「海」が金賞受賞！

岩内初の酒米栽培に携わった150年以上続く農家の4代目、若林善廣さんの協力により、町では新たな地酒造りに挑戦して試験醸造の3年を終えました。岩内岳の伏流水を使った「山」は、純米大吟醸酒として精米歩合45％に磨き上げながら、昨年に引き続きフルーティーな吟醸香を引き出すよう、酵母の割合を変更しました。一方、岩内海洋深層水を使った「海」は、引き続き精米歩合を60％の純米吟醸酒とし、食中酒としてスッキリ辛口ベースに酸味が出るよう酵母を変えました。本年3月に開催された札幌国税局の新酒鑑評会に、田中酒造（株）が自社の代表銘柄で販売している「宝川」として「岩内町の地酒の海」を出品したところ、純米酒の部で品質が評価され、金賞を受賞しました。これまでの最高傑作となった「山」「海」をご賞味いただければ幸いです。

岩内会会長の任期を終えるにあたり

前東京ふる里岩内会会長　和　泉　剛

会員のみなさま及び日頃岩内会にご協力頂いている皆様いかがお過ごしでしょうか。

私が岩内会に入会したのは還暦が目前となった2013年（平成25年）でした。ふるさととの関わりが無性に欲しくなりネットで「岩内／北海道岩内／岩内会」等と考えられるキーワードで検索してもぴったりの情報がなかったものの、なんとか北海道ふるさと会連合会のホームページにたどり着くことができました。そこの構成ふるさと会に「東京ふる里岩内会」が存在することがわかり、東京でなんとなく岩内の匂いを感じたものでした。存在は確認できたもののどこの誰に連絡していいものかの明記が無く困ったことが昨日の様に思い出されます。そこで北海道ふるさと会連合会へどうしたら岩内会に連絡できるのか？とFAXを送信したら1週間後、当時の伊野会長から電話をもらいやっと岩内会との縁ができました。

その伊野会長が平成31年（2019年）3月末で約20年務めてこられた会長を辞することとなりどういう訳か私に白羽の矢が当たり2期4年だけなら…と引き受けることになりましたが2020年（令和2年）からあのコロナ禍となりしょっぱなから難しい舵取りになりました。

そもそもが岩内会へ入会して経験が浅い状態での会長就任でしたから、まずやるべきことは①自分が岩内会までたどり着く時の苦労がないようネットの時代であり検索すれば簡単に「岩内会」にたどり着ける仕組みの構築すること②町及びお世話になっている岩内の業者さんとの関係強化すること③国内の物理的距離は不変ながらネットや交通インフラの整備で時間的距離が短縮されたことで地方常駐の理事を設置し会員の広範囲エリアからの入会を模索する…を目標に走り出した次第です。

令和元年には木村岩内町長から東京ふる里岩内会は岩内町の観光大使に任命頂き岩内町のホームページ内に岩内会のコーナーを作ってもらいました。お陰様で目標に掲げていた上記①及び③を達成することが出来ました。

岩内会に入っていなければ知りえなかった多くの先輩諸氏に感謝しています。

今後は一岩内会員としてみなさまとまた親交を深めさせて頂きたいと願っています。みなさま5年間大変お世話になりました。ありがとうございました。

五―七―五　時の想いを　川柳に

㊗川柳を楽しむ会 事務局　野澤幸平

今年で6年目、昨年は42都道府県より2，500句を超える投稿数が。

川柳に〃人生あり〃。

きっかけは「ぐるなび様 接待の手土産 セレクション２０１９」において弊社商品「かずの子ギフト 煌（きらめき）」が全国30品の特選受賞記念にとの思いで川柳募集。ご投稿頂いた川柳を商品に貼付することで企画致しました。

最も心配をしたことは「選者」さんをどなたかに・・・

いつも笑顔で瞳を輝かせ、来訪者の方へ岩内の歴史を楽し気にシャレ混じりでお話しをしておりました「岩内町郷土館 坂井 弘治」館長さんに白羽の矢を。急なお願いでしたが、〃面白い〃と快諾を頂けましたこと今でも忘れません。坂井館長さんの声に押されながら第２回目を。

しかし、坂井 弘治 館長さんの体調すぐれず、選者さんを担当することに無理があることで、新たに選者さんを探すこととなりました。

選者さんを誰かに。岩内に、俳句や短歌で凄い経歴を持っている森 公一 様がいらっしゃるとの報が。

早々に森 様にお会いし、川柳の選者さんの依頼を。笑いながら、快諾を頂きました。選者 森 公一様には、受賞句のみならず、「補選」30句を含めて全句に選者評を添えて頂いております。

川柳に触れて見ませんか、気軽に。お待ち致しております。

一部ご投稿句ご紹介

第1回（令和元年）

お題：かずの子・鰊・群来

・初春をいろどる黄金北の幸

・春告魚雪どけ進み群来の浜

・ぷちぷちの音も味覚も　やみつきに

・ソーランの歌声ひびき海白く

・樺太の白き岸辺に想いはせ

第4回（令和四年）

お題：お国なまりで昭和

・シルバーにピンクレディは　あながちさん

＊あながちさん：なつかしい

・けなるいな友のテレビは　色付きで　●沖縄県

＊けなるいな：うらやましい　●金沢弁

・またストか！利用者不在　バチタレ

＊バチタレ：腹が立つ奴　●広島弁

・議を言わんでいっき動けち　習もした

＊理屈を言わず、直ぐに行動せよと習いました。●奈良県

・どさ？ゆさ！とおどおがとの　掛け言葉

＊どさ：どこへいくの？

＊ゆさ：銭湯へ　●津軽弁

Mr. Kazunoko

川柳の面白さ

株式会社 温故堂 代表取締役　選者　森　公一

川柳の面白さは何と云っても「笑い」ではないかと思います。この「笑い」はまずは可笑しみ、そして滑稽、諧謔、皮肉、戯評、さらに批評や批判へと繋がってゆくと思われます。新聞掲載の川柳をお読みなる人は多いと思います。新聞の川柳は社会戯評や政治批判が中心になっており、読んでいると、その時々の社会の流れが映し出されており「笑い」の中に得心させられるものが多々あります。

どうしん川柳（北海道新聞）　斎藤一無選より

・筋書きのない一日のドラマ終え　横山ふみ

・核のごみ海に流そか埋めようか　広瀬真擬

朝日川柳（朝日新聞）　山丘春朗選より

・お土産に目覚ましどうぞ　プーチン氏　村松則康

最近ではサラリーマン川柳やシルバー川柳なども人気があります。第一生命保険で毎年行っている川柳コンクール２０２４では

・第一位　増えるのは税とぜい肉　減るぜいたく

・第二位　物価高見ざる買わざる　店行かず

・第三位　マスクなし2年目社員の　笑顔知る

シルバー川柳では

・脱マスクよけい分からぬ　誰だっけ　竹内照美

・5時起床7時散歩で9時昼寝　バンクマ

・痛いのはこことあそこと　あら全部　けんちゃん

第23回有老協・シルバー川柳入賞作より

川柳が最近では身近なものになってきているのが実感されます。

私にとっての岩内町

品川区在住　アテネオリンピック銅メダリスト　田南部　力

私は、岩内西小学校、岩内第二中学校を卒業し、高校から岩見沢、大学は東京という人生ルートを通ってきました。特に小中学校時代の経験が私の人生のベースとなり今の私を形成したのは間違いありません。

小中学校時代の私は春には渓流釣り、ワンパク相撲、夏は地区対抗ソフトボール、少年野球、海に行けば一日中真っ黒になって泳ぎまくり、秋になったら運動公園でロードレース大会、夜は海に行って朝まで秋鮭釣り、そして冬は岩内国際スキー場で朝から晩までずっと滑りっぱなしで帰りのバスなくなり山から滑って家まで帰ってきたりとまさに遊びっぱなしの少年時代を過ごしてきました。

私は小学校3年生の時に初めてレスリングに触れ高校から本格的にレスリング競技として取り組み高校では全国インターハイ、大学で全日本優勝、社会人なってシドニー五輪とアテネ五輪に出場し、アテネ五輪では銅メダルを獲得することができました。

この結果の背景には、私の努力だけではなく家族や人数は多くはないが個性の強い仲間たち、そして岩内町当時の遊びや自然の環境、おいしい食べ物など岩内町のすべてが私の力となり、今に繋がっています。まさに私にとって岩内町は「生きる価値」を与えてくれた宝物だと感じています。これからもこの宝物を大事にしてまいります。

祖母の百回忌法要を迎えて

千葉市在住　監査役　野　村　健　司

新年に当たり、岩内のお寺（光照寺）から例年のように挨拶状と法話カレンダーの送付をいただいた。

さらに、今年は祖母の百回忌に当たる旨のお知らせ書があった。

先年両親の33回忌法要と27回忌法要を了えたところで当分の間、回忌法要とは縁が無いものと思っていたことは迂闊であった。

過去帳、除籍謄本などにより父方祖母の没年は大正15年と確認、さらに伝聞によると祖母は明治中期、子供の頃に富山県婦負（ねい）郡から、北海道前田村に先住する父を目指して母子4人、海路で小樽まで、陸路で苦労の上稲穂峠を越えて発足（はったり）村へたどり着いたとのこと。長じて、同地で縁を得て結婚、農家の主婦として4人の子供に恵まれたが夫（私の祖父）を開墾作業中の事故で失い、次いで自身も病により40代で早逝したとのこと。

3親等（祖父母・孫）で百回忌を迎えることは祖父母の比較的早逝と孫達の相応の長命に恵まれるという稀有な巡り合わせ（自身、これまでに生をおえる思いを数度経験）であると思い至った。

お寺のお世話も頂いてささやかでも秋彼岸の頃、百回忌法要を催して祖父母の生涯（苦難も喜びも）とその時代を偲び、感謝と追悼を捧げたいと思う次第です。

産直フェア報告

古河市在住　副会長　今　慶　範

北海道ふるさと会連合会主催「第27回北海道産直フェア」が東京都渋谷区の代々木公園で、令和5年9月28日～10月1日の4日間で開催されました。

昨年は新型コロナの関係もあり一部に制限がありましたが、今回は新型コロナの分類が2類より5類へ変更となった事で、コロナ以前と同様の内容で開催する事が出来ました。期間中の前半（平日）は今年の全国的な猛暑が継続した天候でしたが、週末は少し気温も落ち着いた事で、多数のお客様が来場され盛況のうちに終了する事が出来ました。尚、連合会本部様からの情報ですと、今年の来場者は約40万人でコロナ以前に迫る数字と聞いております。

岩内会の今年の産直フェア出店商品は海産物が中心ですが、昨年度の実績を踏まえ、売行きの良好だった商品（鮭とば、ゆで水タコ）を増加し、新商品（紅サケ切身、スケソ寒干し、松前漬け）と、お菓子類（岩ちゃん内ちゃん）を加えました。原料の調達が難しく販売出来なかった商品もありましたが、実績としては昨年の12品目1630個に対して今年は13品目2060個を完売する事が出来ました。

今年の目玉としては、販売スタッフが全員お揃いのポロシャツ（背中にたら丸入り）を着用して活動しました。首都圏の方に岩内をアピール出来たと思います。販売にあたっては、岩内会の役員全員が協力し合い連日接客販売に協力していただき、岩内町の魅力、特産品等を首都圏の皆様にPR出来たと考えます。

販売商品調達にあたりましては、北緯43度さん、一八興業水産さん、倉島乳業さん、宮下水産さん、阿部水産さん等のご協力をいただきました。

今後も岩内町のご理解ご協力のもと、この時期に開催されます産直フェアに皆様の変わらぬご支援ご協力をお願い致します。

岩内町の先人とアニサキスとの出会い

館林市在住　産直部会担当理事　吹田久良

はじめに

昨年の岩内会会報（第33号）の和泉会長冒頭メッセージに岩内出身のアスリートの紹介がありました。オリンピック等で日本代表となった3名の方々です。その記事を読ませていただき、私も岩内出身の先人で紹介させていただきたい方を思いだしましたので、ペンを取りました。

その方は昔、岩内町にありました石倉病院の石倉肇先生です。石倉先生は寄生虫の一種アニサキスによる「アニサキス症」を発見した外科医です。その功績により昭和54年に第31回保健文化賞を受賞しております。尚、保健文化賞は昭和25年に創設されて現在でも続いております。戦後の衛生環境が悪化した中で、保健衛生の向上に地道に取り組んだ団体や個人が表彰されております。

私とアニサキス（石倉先生）との出会い

私は岩内で生まれ育ち高校までいましたが、石倉先生は存じ上げませんでした。もう50年も前の話ですが、石倉先生を知る事となったのは大学4年生の時です。私は水産学部で学んでおり、4年生になると卒業論文執筆のため、学部内の各講座に所属する事となります。講座決めは各人の希望が優先されますが、一番人気の無かったのが寄生虫の講座で希望者は誰もいませんでした。少しへそ曲がりの性格だったので、じゃ自分が行きますと手を挙げました。それが私とアニサキスの出会いとなりました。

但し、岩内出身ですので、スケソウダラの内臓（肝臓）表面に丸まった虫が付着している事はなんとなく知っておりました。アニサキスを調査していく中で、石倉先生を知る事となりました。当時から石倉先生はアニサキス症の病理研究では有名な方だと聞いておりました。私とアニサキスとの付き合いは大学4年生の1年間で卒業とともにすっかり忘れておりましたが、数年前より時々、マスコミ等で有名人の方がアニサキス症で救急搬送のニュースを聞く度に昔を思い出しております。

アニサキス症の豆知識

アニサキスは殆どの魚介類に寄生していますが、それらは幼虫でその後、クジラやアザラシがそれら魚介類を捕食し成虫となり産卵します。卵はオキアミに食されそのオキアミを魚介類が捕食する事で当該のアニサキスとなります。魚介類への寄生箇所は基本的に内臓表面ですので、新鮮なうちに内臓を除去するのが基本です。

生きたアニサキスを刺身等で食べた場合、アニサキスが胃壁や腸壁に潜入する性格があり、その場合は急激な痛みが発生します。それをアニサキス症とよんでおります。

アニサキスは加熱や冷凍（凍結）で死滅します。-20℃で24時間以上、70℃では瞬間的に60℃では1分以上の加熱で死滅します。

同期に笑われた卒論の一部を紹介します。刺身を食べる時をイメージしてその際に使用する添加物や調味料5種類（食酢、塩分、醤油、ワサビ、アルコール）をピックアップして五因子二水準という統計学的手法でアニサキスの死滅効果を確認しました。いずれも死滅効果は認められませんでしたが、ワサビは他の4項目に比較すると、少し効果があるように思いました。

まとめ

岩内にアニサキス症の研究について戦後のかなり早い時代に研究し、その内容を論文として発表されていた石倉先生を知っていただければ幸いです。なお、石倉先生は平成14年札幌の自宅でお亡くなりになりました。享年86歳との事でした。ご冥福をお祈りいたします。

昭和29年岩内大火について思うこと

東京ふる里岩内会　野村健司

毎年9月下旬になると、中学校2年生で体験した昭和の岩内大火の事々が昨夜のことの様に鮮明に思い出されます。

9月26日、夕食後に明日の理科のテストのお浚いをしようとしたところ、突然停電となり、屋根のトタン板が強風に煽られた異常音が聞こえました。程なく強風で上空を火の粉が海、港の方角へ飛んでいくのを目撃し、これは大変なことと感じました。父が「ここ御崎は危ないので高台の叔父宅へ非難しよう」と、身の回り品を持ち、2歳の妹と家族4人で瞬間最大風速50ｍの強風を受けながら何とか辿り着きました。

当時の岩内第2中学校は、校舎が逐次新築され竣工から1年から5年程経過し、全体が新しく広い敷地に周柵は無く、周りは畑地で開放的な環境で学校生活を楽しんでいました。

しかし大火後、学校は当分の間休校となり、校舎の一部教室が罹災者家族の避難生活に充てられ、一ヶ月程して学校は再開しましたが各学年編成替えで一クラス減りました。また、各学年一クラス60名学校、教室の環境は大きく変化し岩内を離れた生徒もいました。生徒に限らず学校、先生方のご苦労も大きかったことと思います。一年後に岩内高校に入学し、一クラス50名程度の学校生活が出来たのは嬉しかったです。

終戦後、父が復員し岩内で水飴製販業を起業し、家業として軌道に乗った頃、一夜で生活基盤を失いましたが、再建に向けて精一杯頑張った両親を誇りに思います。殆どの罹災家族も同様であったと推察しています。

学生時代を通し愛用した英和辞典があり、大火2年前の西小学校卒業時に担任から頂いた記念品で、大火で焼失したと思っていた辞書を長く無意識で使用していたことは、二重の奇遇でした。

大火の後、岩内の市街地、街路、公園等の復興は早く、立派に成し遂げられました。後年、仄聞するに、大火とは別に早い時期から町の将来計画を町長、議会等関係機関が検討をしていた為、大火後の街区整理、都市計画業務が迅速に実施出来たとの事です。

この正否とは別に、その思いと意図するところは岩内の特徴の一つで、貴重な歴史に基があると思われます。内外の諸状況の変動が大きい時代こそ、あるべき姿、形、内容について関係者が連携して検討していくことは物事の基本と思います。東京ふる里岩内会も岩内の特徴、歴史を今後も大切にしていきたいものです。

８頁に続く

岩内会の新役員就任にあたり

江東区在住　理事　志尾明洋

東京ふる里岩内会に入会させて頂いたのが令和元年十一月で五年半が経ちました。入会後間もなく新型コロナ感染拡大となったため、感染対策から恒例イベントが中止となり、会員の皆様にお会いする機会が無い状況が続きました。その様な中でも私を覚えて頂き、この度役員へのご指名を頂きました。

入会のきっかけは、仕事で以前お世話になった岩内町出身の知人から久方ぶりに連絡を受け、本会の話を聞いて興味を持ったことでした。ただ、どのような活動をしているかは理解しておらず、どうしたものかと悩んでいたところ知人から暑気払いの食事会への誘いを受け、話を聞ける良い機会と思い参加、その年の総会で入会し、現在に至っております。入会時には思いもしなかった役員に推薦していただき、嬉しく思っております。

岩内に関連が有っても本会を知らない方が居られると思いますので、東京ふる里岩内会のホームページにて知って貰い、更に恒例イベントへの参加を通じて興味を持って貰えると会員の増加にも繋げられるかと思います。微力ではありますが、役員の皆様と協力して岩内会の発展に努力してまいりたいと思います。

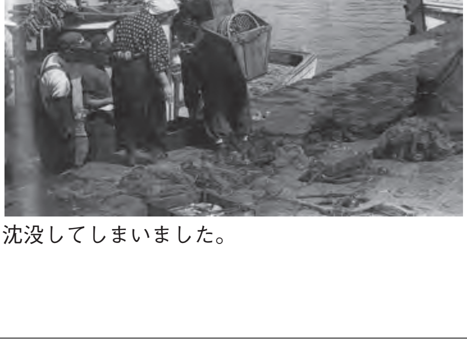
古稀を祝う会と樋口季一郎記念館

足立区在住　岩内高校昭和四十七年卒　押切謙二

昨年六月、昭和四十七年卒三年七組の古稀を祝う会が開催され、私も参加してきました。祝う会は定山渓のホテルで行われ、出席者は全員で十六名でした。高卒以来五十二年振りで再会した友人もいて非常に懐かしく、各自の近況なども解り楽しい時間を共有することができました。我々のクラスは割と集まりが良く、担任の還暦祝いや我々の還暦祝いの時も幹事が声をかけてくれて会っています。また東京にいるクラスメイトとも偶に会っています。東京で知り合った私の友人などに聞くと古稀でクラス会やるのは殆ど無いとのことです。皆さんと別れるとき今度は八十歳で会おうというので、三年早めて七十七歳の喜寿の時にしましょうと提案しました。少しでも皆さんが健康で元気なうちに会うのが大事だと思いました。

その後にどうしても行ってみたい場所があって、友人の車に乗せて貰い石狩町の『樋口季一郎記念館』にいってきました。私は数年前から歴史に興味を持ち始め、特に戦前戦後のことについて我々が習った歴史は本当なのか、まだ知らされてない重要な事件などがあるのではないかという疑問が湧き、本やネットで調べ始めていました。その中で占守島の戦いについて初めて知りました。千島列島の先端にある米軍防衛のための占守島基地での日本軍最後の戦闘です。終戦を知らされ部隊が帰還する準備をしている中、ソ連軍が8月18日の午前0時頃に総攻撃をしかけてきました。その危急な状況を第五方面軍司令官である樋口季一郎に問い合わせたところ、日ソ不可侵条約を交わしているのにそれは背信行為、断固徹底して抗戦すべしという命令が下りました。日本側部隊は全員死力を尽くして戦い、ソ連側死傷者数約3000人、日本側は約600人と圧倒的に日本側の優勢でしたが、最終的にはその3日後の21日に軍命により部隊は降伏し、兵隊は捕らえられ全員シベリヤに抑留されてしまいます。この時スターリンは千島列島占領した後、北海道を留萌と釧路の線状で分割し、アメリカ軍のGHQが動く前に占領しようと計画していたそうです。もしこの戦いがなかったら、ソ連軍は一気に北海道まで攻めていました。北海道の半分はソ連領に変わり、今の北海道はなかった。この死闘を命じた樋口季一郎と全力で戦い抜いた兵隊さんには衷心より畏敬の念が沸きます。この戦いを知るとウクライナ戦争は全く他人事で無く、国を守るという気持ちをもっと道民や国民に多く喚起させるべきだと素直に思います。この戦いで従事した兵隊の中に私の叔父も機銃掃射としてソ連兵と対峙したと最近知りました。彼も当然シベリヤ抑留になり、悲惨な体験をしていましたが、無事に帰還しました。明るい人柄でロシア人のことをロスケと呼び捨て、ロシア語なども面白く可笑しく子供たちに教えていました。生きているうちにもっと話しをしておけば良かったと悔みます。私は日本という国が大好きです。生まれ育った岩内も大好きです。これからもっと岩内や日本の歴史を調べていきたいと思っています。

大火前の岩内港



この写真に写っている漁船の殆どは一か月後の大火で焼失あるいは転覆・沈没してしまいました。

岩内が恋しくて

令和四年入会　杉並区在住　大塚　眞砂世

三年程前、妹に岩内2中時代の同級生の三浦さんから連絡があり、「東京ふる里岩内会」への入会を依頼されたそうです。その時、妹は一人で入会するのをためらって姉である私へ声がかかりました。既に亡くなっている私たちのおじ北本修が「東京ふる里岩内会」に入っていたことを思い出し、私も上京して以来五十五年が経った今、岩内が恋しく思えて妹と一緒に入会することに決めました。

もうすでに亡くなっている父母の家には、今でも毎年春に岩内に帰って家の片付けをしています。帰る度に街には歩いている人はほとんどなく、シャッターが下りてる商店街、港に行っても船が二・三漕しか見当たりません。家のとなり近所はみんな亡くなったか、老人ホームに入ってるようです。さみしくなります。何も変わらないのは、岩内山の姿です。家の窓を開けると春だと未だ雪が残っている美しい山が見えます。

先日、岩内の家に留守番を兼ねて滞在中のオーストラリアの友達夫婦が岩内の街中を散歩していた時に、北キツネが横断歩道を渡っていたと写真を送ってくれました。びっくりです。私が子供の頃、街中で北キツネは見たことはありませんでした。それだけ人口が減ってしまったという事でしょうか。ちょっと面白いお話でした。

次回の懇親会、楽しみにしています。

幼い頃の記憶を辿って

令和四年入会　横浜市在住　大脇　郁世

私は、岩内大火の翌年、昭和三十年、高台六十九番地で生まれました。

冬になると、町のメインストリートを馬ぞりが通っていて、所々に湯気が出ている馬糞がおちていたのが、脳裏に焼き付いています。また、志摩文具店とかっぱ屋さんの間の坂道で、長靴のままでスキーやそりをして遊んでいました。車の数も少ない時代のことです。五歳違いの姉は、大火の後のままごと遊びで「奥さん、逃げましょ、逃げましょ」と真似をする、ごっこ遊びをしていたと、母がよく話していました。

「かっぱ屋さん（正しい名前は分かりません）」といえば、今では考えられませんが、文房具を、親の了承なく、「これ下さい、北本（旧姓）ですけでど付けておいてください」と小学校一年生の時から、付家の意味もよく分からないまま、文房具をゲットしていました。

昭和三十六年四月、東小学校に入学しました。未だ、子供用の服を売っている店もなく、柴山洋服店で、ピンクのスーツを誂えてくれました。なんと、オートクチュールです。冬には、いとや毛糸店で好きな毛糸を選び、好きなデザインでセーターを作ってくれました。今思うと、なんとも贅沢な話です。イセヤさん、馬場呉服店、うめ澤さんで子供服を買えるようになったのは、昭和四十年代になってからだと思います。

東小学校の思い出は、色々あります。入学後、始めての給食で一年生だけ、クリームパンやジャムパン等の菓子パンが一週間出ていました。学校の給食室にパン職人がいて、毎日焼きたての美味しいパンが出ていました。三年生頃まで毎日美味しいパンでしたが、途中から町のパン屋のものに変わり、がっかりしたものでした。給食といえば、私の同年代の友達は、みんな口をそろえて、脱脂粉乳がまずくて、鼻をつまんで飲んでいたといいますが、私は一年生の時から、倉島の牛乳だったので、夫や友達の話を聞く度に、幸せだったのだと思っています。

ある冬の日、漁師の子である同級生が、雪道を縄で束ねた2・3匹の魚を引きずりながら登校し、担任に「ハイ」と渡しました。先生はそのまま、教室の窓の下にぶら下げていました。天然の冷蔵庫です。冬といえば、大掃除は楽しかったです。窓から教室に直接雪を大量に入れて、クラスみんなで一列になり、前の子の肩に手をおいてへびのように長靴のまま、教室の中をぐにゃぐにゃ動き回るのです。床は板張りなので、次第に雪が解け真っ黒い水に変わっていくのです。その後、雑巾で拭き取り大掃除終了。洗剤も使わずエコでした。

こうして、あれこれ思い出していると、次から次へと浮かんできます。活気があった頃の岩内を知っているので、大きく様変わりした今の姿は寂しい限りです。

祝　東京ふる里岩内会四十五周年によせて

元東京ふる里岩内会長　小島幸子

二十五年前、軽々と会長を引き受け、始めての女会長にて何かと批判の多くを同期の新井智子さん、画家の渡辺良子さん、後輩の男性役員の協力にて「かあさん」の声援にて二十年務め、食品会社経営から北海道ふる里の産物を宣伝販売の提案が各会にも望まれ新宿住友三角広場の開催もサッポロビールさんの働きにて開催盛況でした。会は盛大に引き継がれ代々木公園に開催になり何よりの置き土産となりました。退任後、先輩の発言にて「はまなす会」を結成し家族友人、知人の親睦会となり、旅行、バベキュー大会、忘年会を楽しい十年でしたが銀座四丁目角のサッポロビールのビル閉館と共に閉会としましたがあの頃は皆元気でした。

　会員の皆様にはふる里を想い出し健康を確かめる機会の場所です。愛の継続を祈っております。合掌

　　米寿の私から

ふるさとは岩内です

柏市在住　本間東一

　岩内へは墓参も兼ねて定年後はよく帰った。大洗から車と一緒にフェリーで苫小牧に上陸するのがほとんどだ。今の私にはちょっとした冒険気分だ。柏から大洗まで車で1時間半、フェリーは夕方出航で翌日の昼過ぎに苫小牧西港に着く。そこから高速道路を使えば3時間余りで岩内だ。

　岩内でのお気に入りの場所の一つは掘株の海辺、原子力ＰＲセンターの近くだ。大空の下、海の向こうに見える岩内山、雷電山が海に落ちる雷電海岸、岩内山のふもとにわずかに見える町の構図がいい。掘株の小さな船だまりの向こうには、今は海沿いにしか進めない。昔、バスが通った道は発電所の敷地内になり、通れないからだ。船だまりから海辺すこし進むと、遠くにとんがった大きい岩が見えた。それは小学校時代の思い出の大きな岩だった。昔のバス停で言えば多分「茶津」というところ、バスで「掘株」を過ぎ、短いトンネルを抜けたあたりだ。

　そのバス停で降り、海辺にでて50ｍほど海に入ったあたり、浅瀬にとんがった大きい岩がある。当時小学生の私はその大きい岩を「Ｋ２」と呼んだ。「Ｋ２」とは東小学校の映画鑑賞で見た記録映画の山の名前だ。

　それはエベレストの近くにある世界第二の高い山の名前だった。海水浴で「茶津」に行った時は、友達とおっかなびっくり、その岩のてっぺん付近まで登った。「Ｋ２」登頂の記録映画にイメージを重ねて、満足していたわけだ。

　もう一つお気に入りの場所は五色温泉だ。岩内からニセコパノラマラインをドライブする。岩内山を右手に見ながら登り切った後、下り始めた標高７５０ｍあたり、左の側道に入ったところにある温泉だ。硫黄泉で、露天風呂につかりながら前を見上げれば、左にイワオヌプリ、右にアンヌプリの眺めは格別だ。適度にひなびた建物と風呂場、観光客であふれることもなく、時には貸し切り状態で過ごせる。日帰り入浴であるがいつも満足できる温泉だ。

　ところで「岩内山が、ふるさと岩内のシンボルだ」と、還暦を過ぎてからやっと気が付いた。岩内線のあった頃、ディーゼル列車で岩内に帰る。小沢を過ぎて岩内に向かってる時、まず見えてくるのがニセコ連峰の山並みと岩内山だ。その山並みと岩内山を見て、帰って来たとしみじみ感じたものだ。さらに国道沿いの実家の前、西小学校横の坂道のかなたに毎日見える山、それは岩内山だ。それらが子供だった私の頭に刷り込まれていたわけだ。還暦を過ぎてから、毎年登山をしていた私は、その岩内山にまだ登っていなかった。遅まきながらコロナ禍前に4人の友達と登った。登山の達成感と同時に「ふるさとは岩内です」と表明する資格が取れたような気がした。

　岩内でホテルいのうに泊まる時は、いつも岩内山が見える側の部屋をお願いしている。朝起きて窓のカーテンを開け、岩内山を眺めて、ふるさとにいることを実感している。

「愛する岩内町」

町田市在住　理事　阿部英子

「在校中に二度の火災に会った高校生が卒業しました」と新聞の記事に掲載されたことを思いだします。

上京してからも毎年帰省。子供達とは寝台列車から青函連絡船を乗り継ぎ、その後は北斗星、新幹線へと、また直江津〜岩内のフェリーも乗りました。夏休みの恒例行事になっていました。昨年に続き、今年も帰省します。

父が亡くなり、数年後に母も兄と姉が居る苫小牧へ。実家が無くなってからは岩内のアリスの里に宿泊し、時には旅館まんだいに泊まり夏休みの恒例行事は続いています。今は孫達と途中で合流して、岩内〜神恵内〜積丹の方へ、夏の美しい海岸線をドライブ、茂岩で泳ぎ、雷電海岸の刀掛け近くで泳ぐことも楽しみで夏を満喫しています。

子供の頃は、赤灯台が私の遊び場でした。夏休みになると毎日のように行き泳いだ後は、カニ釣りをし、ヒル貝を採って帰宅、夕方には石浜海岸へ磯ツブ取りに、バケツにいっぱい持ち帰って家でゆでて食べていました。雨が降っても泳ぎに行こうとする私に母が「海に泊まってくれれば良いよ〜帰ってこなくていいから〜」と笑っていた事を思い出します。夕日を見るのも大好きで、特に水平線に日が沈む瞬間は、感動しかありませんでした。今でも目を閉じると鮮明に映像が浮かんできます。

その母も２年前に99歳で亡くなり、母の料理を思いだすと、岩内の新鮮な魚料理をいっぱい食べた事。特に印象に残っているのは、夏イカの時期に吸盤がまな板に付くような朝採れの新鮮なイカ刺身を丼一杯食卓に、それをショウガと醤油をかけご飯に山盛りのせて、食べた朝ごはん。美味かった！これ以上の美味しいものは他にないと思っています。

父は岩内出身の画家佐藤栄次郎（農民画家）を陰で支え続けた一人でもあります。作品の額装のほとんどが父の制作です。郷土館には父が寄贈した佐藤栄次郎の絵画が２点ほどあります。画家木田金次郎（漁師画家）とも交流がありました。父も岩内を愛し続けた一人です。

今、私は仕事もしながら、東京都サッカー協会女子連盟の役員をしています。指導者としては十五年間、女子選手に関わって来ました。

赤灯台から泊原発を・・・

２０２１年には、三十年以上に渡り貢献した事に対し、日本サッカー協会から功労者表彰を受けました。２０２０東京オリンピックではスタッフとして参加しました。現在も女子サッカーの諸大会の運営に携わっています。さらに知的障がい女子サッカーにも関わっています。

心の中には常に岩内の海があって、今でも私を勇気づけてくれています。岩内の空気・景色、冬の厳しい寒さも含めて、岩内の環境すべてが私を元気に育ててくれた！そして今があると思っています。岩内で育ったことに感謝してます。毎年帰省するたびにシャッターが下りている店舗が増えていくのを心から寂しく思っています。愛する岩内の為に何か少しでもお役に立ちたいと思っています。春は、「一八」からマストバを友人に送ってもらい、夏は、帰省し「北緯四十三度」で岩内の名産物をいっぱい買って、冬は、「尾崎商店」に〝たちかま〟を予約し、たらこと共にお正月の食卓に添えています。これからも岩内を愛し続けていきます。

いわないと再会

世田谷区在住　令和三年入会　中川清一朗

六年前２０１８年の十月、珍しく予定の無い日曜日にふと何かの広告で見た「グルメイベント「北海道フェアｉｎ代々木～ザ・北海食堂～」を思い出し、ひとり午後の代々木公園会場へ出向きました。飲食系の仕事柄グルメイベントと聞くと覗かないわけにいかず、最終日の混雑も考えず到着した代々木公園駅は既にその盛況振りを知らしめるのに充分な人並みでした。やっとのことでたどり着いた会場は行列や群がる人で超盛況のブースばかりで頭の中で「さすが北海道、イベントやらせりゃ一番だわ」って感心しながら当てもなく進み、ほぼ見たかなっていう時に立ち止まったテントに書かれた文字に見とれて読み返しました。岩内　いわない・・瞬間頭の中を忘れ掛けていた人たちや景色が一気に沸き上がり、つい口に出たのが「あのー岩内から出たものなんですが」

「そっか～何年生まれだ？」

「はい、昭和31年生まれです」

「〇〇ちゃん、あんたと同じ年代じゃねーか」

その時奥から出て来られたのが尾上興禅さん、身の上を話すうちに記憶が少し蘇り、お互いが親戚筋であることを知った次第です。一連をご対応いただいたのが和泉前会長で、勧められるまま「東京

筆者右から二番目

ふる里いわない会」に入会致しました。お陰様でそこから岩内関連の情報や会報を頂けるようになり、自分の身体奥にそれまでには無かった何かが点灯したような気がしました。そして２０２２年十一月十二日市ヶ谷のアルカディアへ意を決して行くことにしました。総会デビューです。会場の円卓では誰も知らない。緊張しました。宴が進む中、隣の席の方と自己紹介や昔話の中に岩高バスケット部というフレーズが出て来て衝撃が走りました。年齢を聞いたら一歳年上の方でお名前を聞いたら更に思い出が沸いてきました。

「須貝先輩、一年の時部活でお世話になった中川デス。」

「ナ・カ・ガ・ワ、思い出した」。

まさかの偶然、隣席、そこから欠けた記憶を目一杯、須貝先輩が埋めて下さいました。人見知りも少し解けお酌ができるようになり、短時間ですっかり岩内会に魅了されました。

生まれたのは共和町で父は製材業を営んでいました。小学校を終えて隣の茅沼村に引っ越し、泊中学は一年まで、岩内の清住へ引っ越し第二中学から岩内高校へ。岩高は一年まででした。それから埼玉県岩槻へ引っ越し私の人生の北海道はそこで止まります。

今年、二月に長い年数がかかりましたが豊洲にやっと施設を立ち上げることができました。良い施設ができました。「豊洲千客万来」「万葉倶楽部　豊洲」皆さん機会がありましたら是非、行ってみてください。

私の「いわない」は再び動きだしました！遠回しに浅く、今度はもっと永く！松代会長からも、前回気にかけて下さった高橋継世先輩からも、もちろん須貝、平野先輩からもたくさんの岩内をもっと頂きたいと思っています。吹田さんには「北海製缶」さんのお話をお願いしたいです。亡くなった兄も関係しておりました。そして幼馴染で大好きだった小林公司くん元気でいたら逢いたいです。聞きたいことが山ほどあります。「いわない」と再会しました。これからもっと「いわない」を育てていきたいです。再会できて有難うございます。

東京ふる里岩内会
祝 創立45周年

順不同

一八興業水産（株）
代表取締役
紀 哲 郎
〒〇四五-〇〇〇一
北海道岩内町大浜六八-七
電 話 〇一三五-六二-一八一一
ＦＡＸ 〇一三五-六二-一八三五

東京ふる里岩内会
岩内高校昭和四十年卒業
三遊亭 右 京（京田 健治）
〒一六二-〇八六七
東京都新宿区市谷山伏町二-八-五〇五
電話 〇三-三三三五-〇一七四

東京ふる里岩内会
岩内高校昭和三十八年卒業
小 林 勝 喜
〒二五三-〇〇三七
神奈川県茅ケ崎市菱沼海岸八-六三
Ｔ／Ｆ 〇四六七-八七-〇三九〇

公益財団法人 日本数学検定協会
学習数学研究所 研究員
中 村 力
〒一八〇-〇〇〇六
武蔵野市中町三-一〇-一〇-三〇四
電話 〇八〇-五四六〇-三〇〇一
nkpw3001xyz@icloud.com

東京ふる里岩内会
岩内高校昭和五十七年卒業
中 村 健 志
〒二三四-〇〇五三
横浜市港南区日野中央一-四-二七
電話 〇九〇-九六五一-〇三五八

東京ふる里岩内会 元会長
中 村 尚 武
〒二二六-〇〇一八
横浜市緑区長津田みなみ台五-一七-五
電話 〇四五-五〇八-一五四八

東京ふる里岩内会 前会長
岩内高校昭和四十八年卒業
和 泉 剛
〒三三四-〇〇〇一
埼玉県川口市桜町五-七-一九
電話 〇九〇-五五四三-八九四九
Hockeydf24@gmail.com

東京ふる里岩内会 顧問
岩内高校昭和三十二年卒業
川 端 健 一
〒二一四-〇〇二一
川崎市多摩区宿河原一-六-八-一〇八
電話 〇四四-九三三-二六一五

東京ふる里岩内会 副会長
下 田 和 房
〒一八六-〇〇〇五
国立市西一-一-五四
電話 〇九〇-二五五九-三〇五七

東京ふる里岩内会 副会長
髙 松 庫 雄
〒三五九-一一六七
所沢市林二-四三二-七
電話 〇九〇-一六九九-六〇二〇

東京ふる里岩内会 副会長
今 慶 範
〒三〇六-〇二三五
古河市下辺見九七六-一
電話 〇九〇-四六六四-三六五〇

東京ふる里岩内会 理事
相 原 正 利
〒一四〇-〇〇一五
東京都品川区西大井二-一七-一三
電話 〇八〇-七七五四-八八一五

東京ふる里岩内会 理事
本 村 和 也
〒二四四-〇〇〇三
横浜市戸塚区戸塚町四五二六-一-A三〇八
電話 〇九〇-八三〇三-八九三九

東京ふる里岩内会 理事
吹 田 久 良
〒三七四-〇〇一九
館林市尾曳町一六-二八
電話 〇八〇-五六八八-七一四〇

東京ふる里岩内会 理事
岩内高校昭和四十五年卒業
東京都女子サッカー連盟 常任委員
阿 部 英 子
〒一九五-〇〇六一
東京都町田市鶴川五-四-六-二〇六
電話 〇九〇-一八〇〇-四一七二
eiko@adaboss.com

東京ふる里岩内会 理事
住 吉 義 弘
〒一九二-〇九一四
八王子市片倉町一三五七-七
電話 〇八〇-五五二八-〇四一一

東京ふる里岩内会 理事
志 尾 明 洋
〒一三五-〇〇〇三
東京都江東区猿江二-一二-九
電話 〇八〇-五五一八-四〇八八
Akihiro.salt0609@gmail.com

東京ふる里岩内会 監査役
岩内高校昭和三十四年卒業
野 村 健 司
〒二六三-〇〇一六
千葉市稲毛区天台二-一六-一八
電話 〇九〇-二九〇一-一二四三

東京ふる里岩内会
ＬＬＰ法人グループ 商業流通士
鈴 木 金 三
〒二七二-〇八三三
千葉県市川市曽谷八-六-一
電話 〇九〇-四二〇五-六四七〇

東京ふる里岩内会 理事
谷 口 弘 子
東京都板橋区在住

第四十五回東京ふる里岩内会総会

所沢市在住　副会長　髙松庫雄

令和五年十一月十一日(土)、アルカディア市ヶ谷にて四年振りに人数制限を設けず来賓と会員総勢五十五名の参加を頂き開催いたしました。

冒頭、和泉　剛会長と手塚良人岩内副町長の挨拶を頂き、令和五年度の事業報告、事業計画、役員の移動と選任の説明を行い、総会議案の全てを承認頂きました。

懇親会は、町議会議員池田光行様の乾杯を頂き、しばし歓談の後、須貝理事の司会による大福引抽選会では、参加者は当選者読み上げの度に歓声とため息で和やかに進行しました。

コロナ後参加者無制限の開催とはいえ、未だ外出を控える方が多ったですが、参加者はあちこちで旧知の方々との話に弾み、和やかなうちに懇親会を終え、最後に全員で「ふるさと」を合唱し、来年も「必ず会いましょう」と誓い閉幕しました。

第一回後志会(仮称)の開催と「観桜会」報告

理事　吹田久良

岩内会では毎年三月中下旬に、毎年恒例行事として「観桜会・花見」を開催しております。今年は岩内会の提案により、後志管内の各ふるさと会が一同に介しての連絡会を発足させたいとの思いがあり、同時開催となりました。

和泉会長から「数年前より後志管内の各ふるさと会に参加させていただいた時に、皆さまから母親が岩内出身とか親戚が岩内に住んでいるとの声かけをいただきました。又、新型コロナ以降、各行事への参加者が減少傾向で、中々ふるさと会が盛り上がらないとの声も聞いております。そんなことから市町村単位のふるさと会からもう少し大きな後志会を立ち上げることでお互いのふるさと会の連帯や問題解決の手法を共有でき、更に発展するのではないかと思い、ご提案させていただきました。」とあいさつがありました。

開催日は二月の暖冬傾向と過去の開催状況より、三月二十三日(土)としましたが、三月に入ってからの寒の戻りにより天候不順が続き、楽しみにしていた目黒川沿いの桜は開花世々、桜見物は中止となり、十二時に池尻大橋駅に集合し散策後、十三時から後志会立ち上げセレモニー、十三時三十分から合同懇親会の予定でしたが、約三十分の前倒しで進めることができました。場所は三菱UFJ銀行池尻クラブで、参加者は総勢三十五名(内岩内会二十一名)。その分、懇親会には時間的余裕が出来、出席者からふるさと自慢をしていただき、楽しい一時をを過ごすことが出来又、後志会立ち上げに関しても、ご参加いただきました各会の会長、副会長よりご賛同いただき、これを機会にこの後志会が末永く続くことを願ってやみません。各会の出席者は左記のとおりです。

小樽会　二名
ニセコ会　五名
くっちゃん会　四名
余市会　三名

第45回　東京ふる里岩内会総会
(令和5年11月11日　アルカディア市ヶ谷)

サーカス

元東京ふる里岩内会会長　中村尚武

春、大学受験を終えた同居の孫娘が巣立った。部屋の隅にビニール紐で括られた参考書類が置かれている。暇にまかせて中学の国語教科書を抜き取り立ち読みする中で、或る作品に目が止まった。その粗筋はこうである。

（空中ブランコ乗りのキキ　別所　実著）

サーカスの一番人気はキキの三回宙返りブランコで、その評判でサーカスはいつも大入り満員であった。ただ然し、キキは誰かがいずれ三回宙を成功させるだろうと気が気でなく、休日の日何度か四回宙を試みたがその都度補助ネットに落ちた。
（本番はネット無しなので、その失敗は死を意味した）

キキのいるサーカスがある港町のカーニバルにやってきた夜である。息抜きのキキが海岸通りを散歩していた時、シャボン玉を吹いているおばあさんに出会い、隣町にやってきたサーカスの娘が三回宙を成功させた事、そして、しばらく間をおいて、キキは明日の晩きっと四回宙をやるだろ心を見抜いた。

「死ぬよ。」
「いいんです。死んでも。」
「それ程迄考えているのなら、お前に一度だけ四回宙をやらせてあげよう。」

おばあさんはそう言って澄んだ青い水の入った小瓶を差し出した。

あくる日、音楽が高鳴る中をキキは白鳥の様に舞台に飛び出して行った。人々のどよめきが潮鳴りの様に古い港町を活気づけた。その夜、サーカスの仲間達はキキを捜したが何処にも見つからなかった。

そして次の日、テントのてっぺんから、白い大きな鳥が悲しそうに泣きながら海の方へと飛んでいくのを見た町の人々は、あれはキキではないかと噂をし合った。

（無常）

四回宙えの挑戦、そしてそれえの完成は、キキにとってたった一度だけの、人生を賭けた生えの価値観を問うものであり、加えて、キキにとって唯一の秘めた美学であったのかも知れない。鳴きながら彼方へ飛翔し去ったそれは、生に対する確信と、誇りに満ちた挑戦の残像ではなかったのだろうかとふとそう想う。

人はそれぞれ命に長短の違いこそあれ、各々に与えられた運命を背にやがて死を迎える。然も、それは明日にでも訪れる厳しくも、性急で、無常な、必然の掟である。

命は人を待つものかは、無常の来たることは水火の攻むるより速やかに　逃れ難きもの
（徒然草第五十九段）

兼好法師はそう指摘する。

かって肉親との別離に際し墓所をおとずれた。カロートの蓋を開き、かがみ込んで暗闇の中に遺骨を差し入れ、再び方形の御影石の蓋を元に戻す。生と死の遮断と、その掟の厳しさに心が震える。

（回想）

小・中・高校と共にした旧友も今は数少なくなった。久し振りYと電話で雑談、故郷にやってきたサーカスが話題になった。

昭和の初期、早春の浜は鰊の群来で賑わった。町は雑踏でゴッタ返し、喧騒と豊穣の街に変貌した。冬の間籠り勝ちだった犬や猫達でさえ外に飛び出し、夜中まで町の中を駆け廻る有様、出面取りのおばさん達大勢が、波止場から荷馬車で運搬されてきた鰊に埋もれて懸命に身欠き鰊の加工に追われる。

そしてその繁忙期が一段落する頃、その広場は夏祭りの広場えと様変わりする。

内地からやってきた仮設テントが立ち並び、人形芝居、地獄極楽の絵図を覗かせるあやしい小屋等々の中で、ハイライトはやはりサーカスの一団で、それは動物園の引越しにも似て、猿、曲乗り出演の馬、ライオン、それにキリン迄顔見せにやって来たと我が友は熱くその風景を語った。（何せYは地元で永く教職の身で過ごし、且つ、親の代から催事場所の御崎地区の主であった）その発言には重みがあり、何もかも首肯せざるを得なかったが、畏れながらと一点だけ質問してみた。それはあんな長い首をして運搬中、トンネルに出会った場合のキリンについての心配である。彼は明解且つ断定的に、意表を衝く解説でその疑問に答えた。即ち、無蓋貨車に敷藁を何重にも敷きつめ寝床とし、専属の飼育員が添い寝し、時には彼の脚を固縛し、なだめすかして連れてきたのだという。

尚、彼はプログラムには当然「空中ブランコ」もありと付け加えた。

ここで兼好は再び言う。

されば、人、死を憎まば生を愛すべし。存命の喜び、日々たのしまざらんや
（徒然草第九十三条）

人生は短い、明日にも死がそこに迫っているのだから、慌しく毎日を実のある日として楽しまねばと迫ってくる。一日をひたすらぼんやり過ごし続ける我はその言葉にうろたえる。確かに年の取った順番から言えば、今は最も死に近そうな年令となり、今更ながらその指摘に驚き、と言って為すすべは無論見当たらず、唯忙然と立ちすくむのみの毎日であることに気づく。

第45回　東京ふる里岩内会総会　開催のご案内

東京ふる里岩内会総会を開催いたします。コロナ後、人数制限なしで盛大に開催いたしますので会員各位のご参加をお待ちいたします。

日　　時　令和6年11月9日（土）　　場　　所　アルカディア市ヶ谷（私学会館）　電話　03-3261-9921

受付開始　午前11時30分　　JR･メトロ有楽町線･南北線･都営新宿線 市ヶ谷駅 徒歩2分

総会懇親会　12時開始　午後3時終了予定　　会　　費　懇親会費　８，０００円　　年会費　２，０００円

事務局からのお知らせ

◎当会は、皆様から頂いた貴重な年会費で運営されております。同封の振込用紙に必要項目をご記入いただき、郵便局窓口若しくはＡＴＭでお手続きをお願い申し上げます。尚、お振り込みにつきましては、お早めにご対応いただきますよう重ねてお願い申し上げます。また、不明な点につきましては事務局までご連絡願います。

☆年会費　　二〇〇〇円

☆振込番号
「〇〇一四〇ー四ー七〇一九〇三
東京ふる里岩内会」

☆問い合わせ先
事務局長　髙松
〇九〇ー一六九九ー六〇二〇

年間行事予定

一、令和六年総会･懇親会
二、新年交礼会　令和七年二月予定
三、桜鑑賞会　令和七年三月予定
四、北海道フェア　令和七年十月上旬予定
五、一山本関相撲応援ツアー　東京場所随時

興味のある方事務局までお知らせ下さい。
詳細決まり次第ご連絡させていただきます。

新入会員

加入時期	会員名	お住まい	岩内との関わり
令和5年9月	阿部　英子	東京都町田市	岩内高校昭和45年卒業
令和5年10月	大倉　正人	東京都目黒区	岩内高校昭和53年卒業
令和5年10月	押切　謙二	東京都足立区	岩内高校昭和47年卒業
令和5年11月	今野　美千代	埼玉県川越市	岩内高校昭和49年卒業
令和5年11月	草間　裕子	東京都北区	岩内高校昭和47年卒業
令和5年11月	大川　須美子	東京都江戸川区	岩内高校昭和49年卒業
令和6年4月	伊藤　哲夫	埼玉県鴻巣市	母親の郷里

代々木公園イベント広場に集合！

今年も10月3日（木）から10月6日（日）の４日間代々木公園広場（代々木公園Ｂ地区）で第34回「産直フェア」が開催されます。スタッフ一同たら丸のポロシャツを着て大勢の皆様のご来場をお待ちしております。ご来場ご無理の方には、この会報に同封の予約表でご連絡いただければ会場から着払いで送らせていただきます。ぜひご検討下さい。

尚、今年は岩内役場からもスタッフが応援に参ります。

編集後記

今年の夏は、例年に比べて特に暑く、夜も寝苦しい日々の連続。そろそろ退出いただかないと涼しく美味しい秋を迎えることができません。巷では、今年は秋らしい日々は無さそう、との声も。

岩内会では、今年は新会長選出、創立45周年及び、岩内大火70周年と重要事項が重なり、会報の紙面つくりも工夫が必要でした。町長をはじめとしたご執筆いただいた全ての方々の惜しみないご協力の賜物と感謝申し上げます。会報が届く頃には過ごし易い毎日となるよう、祈るばかりです。

10月上旬には、代々木公園で産直フェアが開催されます。岩内町からは木村町長（10月４日）、荒木係長（開催日全日）が販売応援に来て下さいます。今年も完売して美味しいお酒を酌み交わすのを楽しみにしております。

Ｙ・Ｍ